

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年1月31日

I 概要

実践団体・担当者名	千葉県市川市立行徳小学校 (担当者：鬼原寿美子)	
連絡先	電話 047-357-3116	
プランタイトル	わたしたちにもできる防災ってなあに！	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に興味や関心を持ち、自己の防災意識を高める。 ・地域や家庭、学校とが連携し、地域の防災意識の向上を図る。 	
プランの概略	<p>「自分の命は、自分で守ることができる子どもにしたい」という願いのもと、いろいろな場面で災害に対処できる力を子ども達につけさせたいと考え取り組んだ。</p> <p>① 学校内での防災訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習中や休み時間中の避難訓練の実施 ・警戒宣言を想定して、保護者への児童引き渡し訓練の実施と、保護者と一緒に通学路の安全確認をする。 <p>② 自分の防災マップ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行徳っ子守り隊」のみなさんの力を借り学区調査をする。 ・危険箇所を記した防災マップの作成 ・千葉大学院生と完成したマップの再確認をする。また、災害が起きた場合の対処について指導を受ける。 <p>③ 自己の防災力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県西部防災センターに体験学習に行く。 ・校内で市川消防署による消火訓練・地震体験・煙中脱出訓練に参加する。 ・新潟地震の被災者の体験談を聞く。 <p>④ 我が家の防災計画</p> <p>⑤ 学区への働きかけ ・防災新聞の発行、防災ポスターの掲示</p>	
プランの対象と参加人数	行徳小学校6年生 135名	
実施日時	2005年4月～2006年1月	
主な実施場所	市川市立行徳小学校	
	連携団体の有無	有

	連携した団体名	①行徳っ子守り隊 ②千葉大学都市計画研究室 大学院生 ③マヌ都市建築研究所 神谷秀美先生 ④行徳寺町会 ⑤市川市消防署 ⑥千葉県西部防災センター ⑦高木仁様 ⑧行徳地区自治会 ⑨市川市都市計画課
	連携したきっかけ・理由	①以前からの支援者 ②講師 ③講師 ④以前からの支援者 ⑤毎年、避難訓練をお願いしている。 ⑥協力依頼 ⑦講師 ⑧⑨協力依頼
	連携団体へのアプローチ方法	①②④以前より面識があった。 ③千葉大学研究室の紹介 ⑤⑥電話にて協力依頼 ⑦中間発表で講師依頼 ⑧⑨電話にて協力依頼、直接会って協力を依頼する
	連携団体との打合せ回数	①1時間×3回 ②1時間×2回、電話による打ち合わせ ③電話による打ち合わせ ④月一回の寺町会議で依頼 ⑤電話による打ち合わせ ⑥事前に予察を実施、後、電話による打ち合わせ ⑦電話とメールによる打ち合わせ ⑧電話、自宅訪問 ⑨電話、市役所訪問
	連携団体との役割分担	①学区調査 防災マップ作成 ②③④講師 ⑤起震車体験、消火訓練、煙中脱出訓練指導 ⑥見学、体験指導 ⑦講師 ⑧自治会の掲示依頼 ⑨地図の入手

II プラン立案過程

プラン立案メンバーの	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	0 名

人数・役割	主なメンバーの 役職・役割	責任者 鬼原寿美子 (市川市行徳小学校教諭) スタッフ 石塚敏子 (市川市行徳小学校教諭) 古川奈緒実 (市川市行徳小学校教諭) 高橋洋之 (市川市行徳小学校教諭)
プラン立案に要した 日数・時間	立案期間	2005年 1月 ~2005年2月
	立案時間	2 時間× 1 回 3 時間× 1 回
	上記のうち打合せ回数	2 回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの蓄積が全くなかったということと急な立案だったので、まず、できることから考えてみようということで、スタートした。 ・行徳っ子守り隊を中心とした団体の支援を得ること。 ・行徳まちづくりプランに千葉大学都市研究室が関与しているので、協力を依頼すること。 ・子ども達に多くの体験をさせ、災害発生時に生きた力となるようにしたい。 	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に対して意識が低いので、地域や保護者の協力が得られるかどうか心配だった。 ・講師の依頼が思ったより大変だった。 ・外部の支援者との綿密な打ち合わせを持つこと。(日程の調整、内容の理解) 	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	0 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 鬼原寿美子 (市川市行徳小学校教諭) スタッフ 石塚 敏子 (市川市行徳小学校教諭) 古川奈緒実 (市川市行徳小学校教諭) 高橋 洋之 (市川市行徳小学校教諭)
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年 4月 ~2006年1月
	準備総時間	2 時間× 15回 1 時間× 10回
	上記の内打合せ回数	17 回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	千葉大学都市計画研究室 大学院生
	どのように働きかけたか	寺町会議の同じ会員として、面識があったため講師依頼も簡単に依頼できた。また、行徳まちづくりプランを当大学が手がけているので、快く引き受けてくれた。

	結果	打ち合わせも含め3回来校し、積極的に支援してくれた。
地域への働きかけ	働きかけた地域の人・機関名	①行徳っ子守り隊 ②行徳寺町会 ⑤市川市消防署 ④市川市役所 都市計画課 ⑤千葉県西部防災センター ⑥行徳地区自治会
	どのように働きかけたか	①②⑥については、行徳っ子守り隊のみなさんが中心となって声をかけてくれた。 ③例年防災訓練を実施している都合上、電話連絡で承諾がとれた。 ④直接、市役所へ出向き交渉する。 ⑤インターネットを活用し事前に調査した、あとは、電話で連絡を取る。また、事前に予察に行った。
	結果	どの団体、機関とも快く受け入れてくれた。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	市川市立行徳小学校6年生の保護者
	どのように働きかけたか	保護者なので、印刷物や電話での他に、保護者会や学級長役員会で協力の依頼をする。
	結果	6年の保護者の約9割の協力を得ることができた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	機材 スクリーン、プロジェクター、PC 教材 図書の活用、インターネット、
	入手先・入手方法	機材で不足については、近隣の小学校から貸与した。 PCはスタッフが持ち込む
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	機材 映像を通じて地震のこわさを伝えるため。
参加者の募集	募集方法	なし
	募集期間	年 月 日 ~ 月 日

	参加予想人数	名
	実際の参加人数	名
	募集方法の成功点	
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した点・工夫した点		<p>○新潟中越地震を体験の方がなかなかいらっしゃらなくて困った。中間発表の後の懇親会で高木様にお願いできてよかった。</p> <p>○人気があり、千葉県西部防災センターの予約が思うように取れなかった。また、貸し切りバスの予約も大変だった。</p>

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月			
2005 1月	○2005年チャレンジプランの企画書作成 ○第1回スタッフ会議	○防災チャレンジプランへの応募	
2月	○第2回スタッフ会議（ワークショップの計画）	○防災チャレンジプランワークショップの事前準備	○チャレンジプランの計画発表
3月			
4月		○第3回スタッフ会議（年間指導計画作成）	「わたしたちにもできる防災ってなあに！」のスタート 校内第1回避難訓練 4/19
5月		○第4回スタッフ会議（防災マップ作りについて）	○防災についての調べ学習開始
6月		○第5回スタッフ会議（ゲストティチャーとの打ち合わせ事項について） ○第1回防災マップ作りの打ち合わせ（行徳っ子守り隊） ○第2回防災マップ作りの打ち合わせ（行徳っ子守り隊） ○第3回防災マップ作りの打ち合わせ（保護者） ○第4回防災マップ作りの打ち合わせ（市役所都市計画課） ○第6回スタッフ会議（学区調査の予察）	防災マップ作り開始 ○マップ作りについての調べ学習 ○学区の様子についての聞き取り調査 ○行徳地区の地図入手 ○学区の様子について、話を聞く。
7月		○第7回スタッフ会議（学区調査の予察） ○寺町会議出席	○行徳っ子守り隊のみなさんと学区調査 7/7 に実施 ○学区調査をもとにマップの作成
8月		○第8回スタッフ会議（千葉県西部防災センター見学について） ○千葉県西部防災センターの予約、見学に当たっての貸し切りバスの予約 ○第9回スタッフ会議（千葉県防災センターの予察実施）	
9月		○第10回スタッフ会議（2学期の計画について） ○寺町会議出席	警戒宣言を想定した引き渡し訓練 9/1 千葉県西部防災センターに体験学習 9/29

<p>10月</p>		<p>中間発表 ○「新潟地震体験者のお話を聞く会」の講師（高木様）決定 ○メールと電話で高木様と打ち合わせ ○第11回スタッフ会議 （我が家の防災計画について）</p>	<p>防災新聞第1号発行</p>
<p>11月</p>		<p>○寺町会議出席 ○第12回スタッフ会議 （ワークショップについて） ○第1回千葉大学都市研究室と打ち合わせ</p>	<p>防災ポスター作成 新潟地震体験者のお話を聞く会 11/21 第1回防災ワークショップ開催 11/26 我が家の防災計画作成</p>
<p>12月</p>		<p>○第2回千葉大学都市研究室と打ち合わせ</p>	<p>第2回防災訓練 12/1 防災標語作成 千葉大学と都市研究室のみなさんと一緒に、防災マップづくりをする。 ↓ (12/15) 我が家の防災計画完成</p>
<p>2006 1月</p>		<p>○第13回スタッフ会議 （報告書作成）</p>	

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

参加者、児童・行徳っ子守り隊・寺町会会員・保護者

タイトル	新潟中越地震を体験した人の話を聞こう(長岡市 高木様)			
実施日	11月21日(月)			
所要時間	5分	20分	15分	5分
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震を体験した人の話を聞き、被害の様子を知る。 ・災害を想定し、日頃から用意すべきことを理解し、進んで取り組もうとする気持ちを持つことができる。 			
生成物				学習カード
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ○概要説明 ○講師紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○大地震発生時の様子 ○大地震発生後のまちの様子と人々の様子 ○「山古志村のマリと三匹の子犬」の本の朗読 	<ul style="list-style-type: none"> ○大地震の被害の様子のDVDをみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質疑応答 ○学習カードに振り返りを記入する。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ○マイク ○PC、プロジェクター ○スクリーン 	「山古志村のマリと三匹の子犬」の本	DVD「中越地震の被害の様子」	
場所	体 育 館			

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

11月26日のワークショップ参加者、児童・行徳っ子守り隊・寺町会会員・千葉大学都市研究室・保護者

タイトル	防災ワークショップ開催(開催日11月26日)			
実施日	11月23日	11月24日	11月25日	11月26日
所要時間	45分×2	45分×2	45分×2	45分
達成目標	○発表会の内容を決めよう。 ○発表会の準備をしよう	○発表会の準備をしよう。 わかったことや調べたことを模造紙にまとめよう	○発表会の準備をしよう。 わかったことや調べたことを模造紙にまとめよう	○自分の調べたことや伝えたいことをはっきりと表現することができる。
生成物		班ごとにまとめた模造紙	班ごとにまとめた模造紙	班ごとにまとめた模造紙
進め方 (箇条書き)	○概要説明 ○班分け A地震のメカニズム B非常持ち出し袋 C救助犬 D地震が発生した場合の対処について ○班分け後、図書資料やインターネットで調べ、まとめる。	○ABCDに分かれて、図書資料やインターネットで調べ、模造紙にまとめる。	○ABCDに分かれて、図書資料やインターネットで調べ、模造紙にまとめる。	○前半・後半に分け、発表者と聞き手に分かれて発表をする。 ○一方通行でなく、互いが意見交換の場となるよう考える。

ツール (特別に用意した もの)	○マイク ○ホワイトボード ○マジック ○模造紙	○ホワイトボード ○マジック ○模造紙	○ホワイトボード ○マジック ○模造紙	○マイク ○ホワイトボード ○マジック ○模造紙
場所	教 室			体 育 館

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

「防災マップ」をつくろう の場合

タイトル	防災マップってなあに	防災マップの作り方を調べよう	マップづくりのための学区調査	防災マップづくり
実施日	6月7日	6月10日～6月30日	7月7日	7月8日～9月20日
所要時間	45分	45分×6	45分×4	45分×8
達成目標	防災マップの良さがわかり、作成する必要性を見出すことができる、	マップに記すことや作成上で必要な事柄について、図書資料やPCを利用して調べることができる。	自分の家の周りについて。危険箇所や消火施設、防災倉庫などについて、行徳っ子守り隊のみなさんと一緒に学区調査をし、記録することができる。	防災マップづくりに意欲的に取り組むことができる。
生成物		学習シート	防災施設や設備を調べ、記入するシート	防災マップ
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画の概要説明 ○マップの意味 ○マップ作成班を通学路を基盤として班を結成する。 21班結成 	<ul style="list-style-type: none"> ○マップ班に分かれ、個々の疑問や班の疑問についてしらべる。 ○調べたことを学習カードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○消火栓、消火器、掲示板等について調べたことを地図に記入する。また、写真に記録する。 ○危険箇所や安全地帯について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学区調査の結果を基に、地図に記入する。 ○学区調査の時に撮影した写真を効果的に使う。

ツール (特別に用意した もの)	○図書資料	○図書資料	○地図〔小判〕 ○カメラ	○シール ○地図(大判) ○写真 ○マジック
場所	体 育 館	教 室	地 域	教 室

タイトル	千葉大学の学生と一緒に マップを完成させよう	完成したマップの発表会を 開こう
実施日	1 2 月 1 5 日	1 2 月 1 6 日
所要時間	45分×2	45分×2
達成目標	災害が発生した時に使える ような詳しいマップを 千葉大学のみなさん一緒 に作り、完成させよう。	友達の班のマップを見たり、 説明を聞いたりし、自分たち のマップと比較することで よりよいマップを完成させる ことができる。
生成物	完成した防災マップ	完成したマップ
進め方 (箇条書き)	○防災に強いまち作りの 話を聞く。	○完成したマップを互いに 見合う。

	<ul style="list-style-type: none"> ○井戸、池、公園、お寺、コンビニ、公共施設、病院などを書き加える。 ○垣根の有効利用についての話を聞く。 ○市川市の防災倉庫の場所や地下水槽の場所について教えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の班のよいところを取り入れ、書き加える。 	
<p>ツール (特別に用意したもの)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○マジック ○PC ○スクリーン ○プロジェクター ○ホワイトボード ○模造紙 ○マイク ○マップ 	<ul style="list-style-type: none"> ○マジック ○マップ ○マイク 	
<p>場所</p>	<p>体 育 館</p>	<p>体 育 館</p>	

VI実践後

参加者へのアンケート結果	実施していない	
成果として得たこと	<p>○子ども達の声の中に、「防災学習をする前と比べ、災害に対する恐怖心が減少した。」という感想が多かった。少しずつではあるが学習の成果を感じている。</p> <p>○行徳っ子守り隊のみなさんを始め、多くの地域住民の支援を得て、学習できたことは有り難かった。今度は、中学生という立場で、小学生を支え、サポートする立場として活動してもらいたい。</p> <p>○防災マップを作成したことで、当該学年だけでなく、全校児童の役立つマップとなった。</p> <p>○我が家の防災計画を立てたことで、家族の輪が広がり、家族全員で共通理解できたことも収穫である、何より子ども達は、いざというときの行動や対応策が明記されていることで安心感を持つことができた。備えがあることは、防災に強い自分を作ることであることを感じたようだ。</p> <p>○多くの人々と接して学習を進めたことで、子どもの社会性を向上させることができた。</p>	
成果物	(学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。)	
広報方法	広報した先	なし
	広報の方法	
	取材にきたマスコミ	
	広報された内容(掲載された記事・番組等)	
	成功点	
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	保護者会や授業参観を通して、保護者に説明をしたり、学習の様子を公開したりすることで、防災教育に対し賛同をいただいた。それと同時に、保護者や地域の方々へ防災への意識を高めることができよかった。	

	<p>マヌ都市建築研究所の神谷先生のお言葉に「災害に強くなることは、住民どうしが日常生活でも支え合えることである。」というお言葉が印象に残った。災害が発生したら、互いに協力しあえる関係を普段の生活の中で培っていく必要がある。</p> <p>「自分の命は自分で守る」ということに、子ども達一人ひとりが、少し近づけた気がする。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	<p>子ども達は中学生になる。今年度は、6年生を中心に防災教育に取り組んできた。次年度は、今年度学習してきた成果を土台とし、他学年に広めていきたい。</p> <p>また、防災新聞を定期的に発行していくつもりである。</p>
	是非実施してみたい取り組み	<p>総選挙と急に入り、当初計画されていた地域の防災訓練が中止になってしまったことは、誠に残念である。今後も地域のみなさんと連携し、ぜひとも実施したいと考えている。</p>
自由記述		

